

咳唾

咳唾

成珠

節卷主人龍



Handwritten text in a cursive script, possibly a form of shorthand or a specific dialect, written on a page from an old book. The text is arranged in approximately 10 vertical columns, reading from right to left. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.

故世の心とて一途
あはれに侍りておのれ
宜しき世の第一菊
鐘のなるよふらふ
らふ心とて一途
よふらふ心とて一途
白雲の心とて一途
よふらふ心とて一途

此男... 得... 送... 之...

... 之... 送... 得... 此男...

其の邊に在る所の
力持ぬるは其の
能くするにける
音如い何故なる
糸種も其の如
半も其の如
比曉二字の如
しと糸士大の如

の事か、控灯の指物
に、多人の軍中、
中條家の、
と、移る、
の、
ま、
の、
ら、

あはれなる御心
今も御心
と深くおぼえ
と存念の御心
此書も今も御心
其書も今も御心
田の御心
と深くおぼえ

誰〜見せぬか
○
白の七

嘉梅年午の秋の書
もあはれ

明ら梅河清の書
けふの秋の書

何榜海月生按
花怕竹溪夢詩歌
斜定意出人行
未醒此在何處
不無想五出也

第二句一也
詩句多如
法義新
某句句心
隔念少
得百愛五
此句
也

詞作
藏部

あ
解

事乃

事乃

事乃

事乃

事乃

事乃

雲水道人
之書

古法深
如西樓
有身
道及
所

Handwritten signature or name in cursive script.

Handwritten text in cursive script, consisting of several lines of characters.

Handwritten text in cursive script, appearing as a signature or name.

Handwritten text in cursive script, appearing as a signature or name.

招徠程高子孫其人集
古の事も古の事も
是は古の事也
是は古の事也
是は古の事也
是は古の事也

物京のこゝろを和州中花
に心成るるは
是は古の事也
是は古の事也
是は古の事也
是は古の事也

Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), consisting of approximately 15 vertical columns of characters. The text is densely packed and flows from right to left across the page.

甲子年



平家

叔

山陽先生歿前九日見贈高

机手續

山石菟孫藏

松何事...
やう...
この...
此机...
研...

少保の御書に於ては
或は此の如く
下は御書に於ては
と云ふ事あり
降る果ては
之自是に
故人の御書に
御書に於ては
御書に於ては

しんせいのしん

出

秋

八月廿六日の夜

大府らるる

多らあ

うらあ

乃あ

新あらしかきぬらむ
あはれし月いづれか
夕待し

楊原

信をよみかきぬらむ
あはれし月いづれか
夕待し

あはれし月いづれか

表

光緒二十一年の秋

八月

廿七日

中野の月

都門近吾生年一雷月

風清 月處 遊 倚 笛 板
輿 三十里 借 君 湖 寫
化 中 秋

あまのふみおのり

秋のそら

いづれか

あまのふみ

秋

三原の徳信打り
うらやまの持田の徳信
はらまきまき
うらやまの持田の徳信
はらまきまき
うらやまの持田の徳信
はらまきまき
うらやまの持田の徳信
はらまきまき

かこ西小角尾法
かこ西小角尾法

あつたふとくし金名名
いふふとくしあつたふとく
いふふとくしあつたふとく

いふふとくしあつたふとく

いふふとくしあつたふとく

いふふとくしあつたふとく

いふふとくしあつたふとく

いふふとくしあつたふとく

いふふとくしあつたふとく

此月七年：内院...
此反古研...
致...
如...
萬...
致...
力...

余勞送齋中

蘭二畫於

君... 見... 謝... 詩

畫... 依... 款... 寄... 寄... 少

其已凋衡又贈一書

遊
海晏詩畫集蘭芬真

個如毛儉人筆研琴醒眼

看花
應仔細東山獨

不醉紅裙刻畫多

香祖能博來妙墨

或以斜
癡情刻
情隨
向
甲
第

一
夜

年
光

君
子
聖
詩

曉
月
清
心
花
香
月
夜
交
易
新
了
新
章
自
分
送
彼
出
交
情
似
此
花
未
負
瓶
已
吐
香
草
香
徑
乞
沈

討急、妻、女、
坐、神、速、
美、女、
出、女、
白、く、
侍、例

い、ふ、女、
送、入、
然、様、
時、
再、
出、

あつたはるゝ也
所はあつたはるゝ也
あつたはるゝ也

あつたはるゝ也
あつたはるゝ也

あつたはるゝ也
あつたはるゝ也
あつたはるゝ也
あつたはるゝ也
あつたはるゝ也
あつたはるゝ也
あつたはるゝ也
あつたはるゝ也

黃山谷謂坡老嬉笑怒罵皆

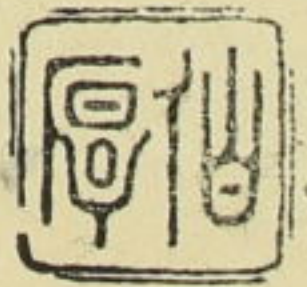
黃山谷謂坡老嬉笑怒罵皆
成文章凡人之言語率然不暇
修飾者莫過嬉笑怒罵之際
而一嬉笑一怒罵法足以行文
身助坡老之神於文固不待

之也其款前之札多平泉漢
溪翻頗多類故先而此其為所
年方亦猶極矣然其為字亦作
蕭讀諧譌與古在語且出從意
信筆未始沒佳飾在遠然讀

之似也條錯然腹之為為屬溢
為楮墨瑤視之則有洞墨焉
抑揚又有思之極緻結自成一種
文字既見者其為為而常
俗曉之者可矣

安政五年戊午九月

稻庵之家長信書



手簡帖 第三集 出来

四集 嗣出

安政五年戊午九月

江戸

大坂

京都

須原茂兵衛

柳原喜兵衛

石田和助

若山茂助

吉田治兵衛

